

本学園 水田祥代理事長、本学 石川博之学長就任



学校法人福岡学園
水田祥代 理事長



福岡歯科大学
石川博之 学長

故 田中健藏 前理事長の逝去に伴い、平成27年3月3日に開催された理事会において、水田祥代氏が、学校法人福岡学園（福岡歯科大学・福岡医療短期大学・医科歯科総合病院・介護老人保健施設サンシャインシティ）の理事長に選任されました。なお、任期は平成27年3月3日より平成29年8月2日までとなります。

[略歴]

昭和35年3月 長崎東高等学校卒業
昭和41年3月 九州大学医学部卒業
昭和43年3月 英国リバプール大学附属アルダー・ハイ小児病院留学（昭和45年3月まで）
昭和49年12月 九州大学大学院医学研究科修了（医学博士 甲第474号）
昭和58年10月 福岡市立こども病院・感染症センター 小児外科部長（昭和61年3月まで）
平成1年9月 九州大学医学部小児外科学講座 教授（平成16年3月まで）
平成16年4月 九州大学病院 院長（平成20年3月まで）
平成20年10月 九州大学理事・副学長（平成22年9月まで）
平成23年8月 学校法人福岡学園常務理事（平成27年3月まで）
平成27年3月 学校法人福岡学園理事長（現在に至る）
平成27年3月 社会福祉法人学而会理事長（現在に至る）

平成27年1月31日で退任された北村憲司前大学長の後任に、2月1日付で石川博之氏が福岡歯科大学学長に就任されました。なお、任期は平成27年2月1日より平成30年1月31日までとなります。

[略歴]

昭和57年3月 北海道大学歯学部卒業
昭和61年3月 北海道大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）
平成12年11月 福岡歯科大学教授（現在に至る）
平成15年4月 福岡歯科大学口腔・歯学部門長（平成19年3月まで）
平成15年4月 福岡歯科大学成長発達歯学講座主任教授（平成19年3月まで）
平成19年4月 福岡歯科大学医科歯科総合病院長（平成21年3月まで）
平成19年4月 学校法人福岡学園（旧：福岡歯科学園）評議員（平成21年3月まで）
平成21年1月 学校法人福岡学園（旧：福岡歯科学園）理事（平成21年3月まで）
平成21年4月 福岡歯科大学成長発達歯学講座主任教授（平成27年1月まで）
平成26年2月 公益社団法人日本矯正歯科学会理事長（現在に至る）
平成27年2月 福岡歯科大学長（現在に至る）

「定時評議員会・総会・
特別講演会・祝賀会を終えて」

平成26年度第51回定時評議員会・第36回定時総会及び懇親会が、平成27年5月30日（土）午後3時から、ホテル日航福岡で開催された。

会議の冒頭において、今年2月に急逝された田中健藏理事長に対して黙とうが行われた。評議員会・総会では、本部の各役員より平成26年度の活動報告が行われた。議事では、6つの議案（平成26年度事業報告・収支決算案、平成26年度同窓会特別支援事業収支決算案、平成27年度事業計画案、平成27年度会計収支予算案、平成27年度同窓会特別支援事業収支予算案、特別会員の推薦案【大関悟教授・筒井昭仁教授】）が執行部より提案され、審議の結果承認された。

総会後、特別講演会において、平成27年2月から新学長に就任された石川博之先生による「大学における歯科医師の養成」と題して講演が行われた。石川博之先生は、平成12年に矯正歯科学講座の教授として本学に着任され、附属病院長を歴任されました。現在、日本矯正歯科学会理事長を務めておられます。講演では、今後の本学学生の教育の方針・方法についてお話を頂いた。



平成26年度定時総会

講演会後懇親会が開催されたが、今回は昨年12月に行われた衆議院選挙において再び当選された比嘉なつみ議員（8期生）の当選祝賀会として開催された。田中健藏理事長の後を受けて新理事長に就任された水田祥代先生、新常務理事の北村憲司先生、顧問の本田武先生は、特別講演会に引き続いご出席頂いた。水田理事長、石川学長から比嘉先生の衆議院当選を祝うお言葉を頂くとともに、同窓生に向けて同窓生の誇れる学園づくりへの抱負についてお話を頂いた。比嘉なつみ先生からは、国会議員として働くのはもとより、同窓生の一人として福岡歯科大学の発展に尽くしていきたいとのお話があった。祝賀会は、同窓生の笑い声があちらこちらから聞こえる中、終始和やかなうちに進み、高嶺副会長から比嘉先生へのエールをもって閉会となった。

広報常務理事 広瀬武尚（4期）



校歌斉唱

《定時総会特別講演会》

—大学における歯科医師の育成—

講師 福岡歯科大学 石川博之 学長

平成27年5月30日に、平成26年度本学同窓会総会特別講演会が石川博之学長により「大学における歯科医師の養成」という演題で開催された。

石川学長はまず歯学教育の大きな出来事として「平成13年に歯学教育のモデルカリキュラムが作製され、現在の教育はすべてこれに基づいて行われている。教育の標準化がここで成されたので、歯科医師国家試験等にも標準的な問題の出し方が可能になってきた。さらに、2006年には臨床研修が必須化となり、これらはすべて歯科医師の資質向上に向けた取り組みということで作製されたものである。」との説明があった。

続いて、卒前教育としてモデルカリキュラム、口腔医学、6年生の国家試験対策についての話があり、「モデルカリキュラムというのはそもそも、医学の進歩により知識が膨大になってしまったことで、本当に必要なものを精選しようという目的で作製されたものである。CBT、オスキー等のように、臨床実習開始前に習得すべき必須能力が500以上決められており、その運用は大学の教育の6割をこれに費やすなければいけない。残りの4割は大学独自のカリキュラムで個性を出してください、といった仕組みとなっている。そのため、大学としてしっかりと理念を持って教育を行うことが重要であり、本学ではこの4割の中で口腔医学というものを推進していると個人的には考えている。

現在、疾患の治療を主体とした医療から、口腔機能の回復を主体とした医療への転換が求められている。現在は小児のう蝕が減少し、高齢者の口腔機能の回復が呼ばれている時代となっている。65歳以上の高齢者の歯科来院数は今では約3人に1人まで増えている。さらには来院自体が困難な高齢者も多く存在し、在宅や介護、施設への訪問診療等が必要な時代となっている。一般の病院においても、様々な痛みを伴う口腔症状に対する口腔ケア、あるいは誤嚥性肺炎の予防に対する口腔ケアの重要性が言われている。また、研究レベルでは歯周病と糖尿病との関連のように、これからどんどん全身疾患との関連がエビデンスとして出

てくると思われる。

歯科医療はこれからどんどん新しい領域での展開が必要となってくる。有病者に対する安全な歯科医療を考えた場合に、安心安全に実施できる知識を持ち合わせ、全身を理解して医科ときちんとした連携がとれる歯科医師を育てるためには、それに合わせて今からいろんなことを考えていかなければならない。そしてこの本学は一番、時代が必要とする歯科医師を育てているんだというメッセージをどんどん出していきたいと考えている。

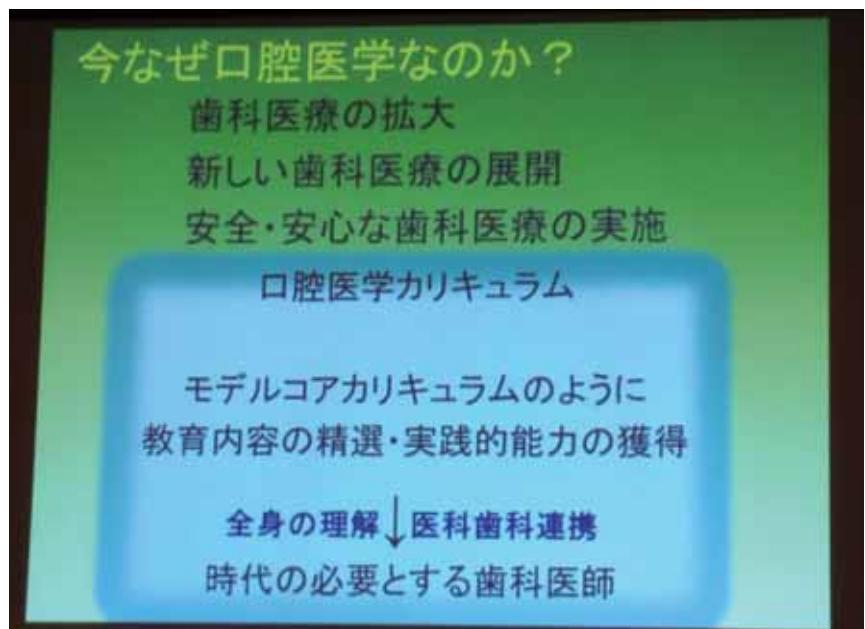
6年生の国家試験対策に関しては、最近全国的にも減少している合格率そのものより、合格者を増やすしないといけないと考えている。国家試験に対応していくためには教員と学生側で考えなければいけないことがあり、まずは教員が国家試験の内容を把握しているかどうかが第一である。学生はキーワードで覚えてしまう傾向にあり、最近の問題は根拠を理解しなければならなくなっていることから、教員側がこれらを意識した解説をしなければいけない。また低学年から勉強をする習慣をつけさせるようにしなければいけないので、そのことも各委員会で検討している。」との話があった。さらには卒後教育の重要性についても詳しく述べられた。

講演終了後の質疑応答では、今後の歯科医師数の変化に関する質問もあり、講演会は盛況のうち終了した。

広報理事 重富澄保(24期)



石川博之学長



講演スライドから

「みんなの笑顔のために」



衆議院議員
比 嘉 奈津美（8期）

時の流れとは速いものです。8期の私が卒業して30年近くの年月が過ぎようとしています。草創期の本学に学んだあの頃、様々な息吹に溢れ自由闊達な空気に満っていました。何よりも温かい心を持って私たちに接して下さった先生方、各地から集まった個性的な学友達に恵まれた豊かな時間でした。

母校を巣立ち沖縄の離島での勤務を経て、「全ての患者さんに誠実に向き合い、説明責任を果たす」を信条に開業した25年、仕事に誇りを持って歩んで参りました。

一方、歯科医師会の活動にも同窓の先輩方からの御推举もあり、女性として全国で初めての県歯科医師会副会長に就任しました。女性歯科医師会役員として出席した、全国あるいは九州の数々の会議などで、同窓の先生方から、「がんばれ！」とお声をかけて頂いたことがこの世界への一番の弾みになったことは事実です。また、歯科界のみならず、対外的な接点も多くなりあらゆる業界との皆様との出会いに恵まれました。

沖縄県が策定する振興策を協議する「沖縄県振興審

議会委員」として、故郷の歴史・現状を直視しながら明日の沖縄はどう歩むべきかを真剣に論議もしてきました。

県歯科医師連盟の役員として、各種選挙の折には女性部の枢要な立場に置かれ、不承不承応援のマイクを握ることもありました。やがて、図らずも自民党沖縄第三選挙区候補者の選考委員を務め、ついには自らが候補者として推挙されるに至りました。

「総選挙に立候補するなんて！」自身の意思とは関係なく奔流に投げ込まれ、戸惑いながら心に湧きあがったものは、医療の現場で患者さんから頂戴した示唆、同じ医療人の想い、国外での歯科ボランティアを感じた事。すべて政治の光が必要だという現実。そこに、帰結しそれなら留まる理由を探すことなく進むことを決意しました。それに賛同して下さった、同窓会の先生方を主体とする歯科医師の仲間が選挙期間中、早朝診療前からのお手振り、休日はビラのポスティングなど尊い汗を流して頂きました。これまで生きてきた私の証を皆様のお力添えから感じました。「みんなの笑顔のために」「医療福祉の現場から」をキヤッチフレーズに、2012年12月初当選、昨年12月の2期目の選挙では沖縄にだけ強烈な逆風が吹き荒ましたが、引き続き議席を頂き、衆議院厚生労働委員会を主戦場に活動を展開しています。労働問題から、医療福祉、社会保障、年金と守備範囲の広さは全委員会で一番ですが、医療人として育てて頂いた私が「誠実に向き合い説明責任を果たす」舞台はこれ以上ありません。これからも歯科医師として心の通う同窓の方々の心を心として精進してまいります。折に触れてのご指導、ご支援、心からお願い申し上げ、同窓会、本学の益々のご発展をご祈念申し上げご挨拶と致します。



衆議院厚生労働委員会での比嘉議員

米国ロマリンダ大学口腔インプラント科への留学



咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
講師 山本 勝己 (22期)



診療の合間にDr. Jaime Lozadaの誕生日会。

このたび多くの方々に支えられながら、一年間の海外留学を無事に終えて帰国することができました。ここに留学先で学んだことや感じたことを報告したいと思います。

留学先は口腔インプラント学の教育・臨床に特色があり、この分野にて多くの論文報告をもつ米国ロマリンダ大学歯学部口腔インプラント科を選びました。ロマリンダ大学は、米国カリフォルニア州にある世界的に有名な私立医科大学の一つです。そのためロマリンダ大学では、全米だけでなく世界80か国以上、約4000名の学生が最先端の医学や歯学を学んでいます。

ロサンゼルスから、FreeWay10で東へ1時間半ほど行ったところに大学があります。ロマリンダ周辺の気候は砂漠気候に属し、雨はほとんど降りません。留学の当初の4月で、すでに真夏を感じるほど日差しが熱くそれが一年を通じて続きました。一日の寒暖の差が激しく季節によっては、朝夕は暖房で日中は冷房を使用するほどでした。そのため体調の管理に気をつけ

る必要がありました。留学の三ヶ月を過ぎた頃に風邪症状を呈して大変に苦労をしました。

ロマリンダ大学口腔インプラント科には二人の教授が在籍しています。一人はDr. Jaime Lozadaです。口腔インプラント科のDirectorでもあり、卒後研修プログラムの責任者でもあります。Dr. Lozadaは2011年に従来の上顎洞底挙上術に対して、Dask systemを用いた方法を低リスクのラテラルウインドウテクニックとして提案する論文を発表しています。上顎洞底挙上術そのものは、1976年に上顎無歯顎患者の臼歯部におけるインプラント治療の1つの選択肢としてHilt Tatumによって発表され、1980年にBoyneとJamesにより論文として報告されました。この論文の著者であるDr. Jamesはロマリンダ大学口腔インプラント科の前任教授であり、そのためDr. Lozadaからこの術式に対して丁寧に学ぶこと出来ました。もう一人は審美領域におけるインプラント補綴について、多くの論文を発表しているDr. Joseph Kanです。彼は前歯部における補綴



Dr. Joseph Kanとの診療風景。

治療において、抜歯即時インプラント埋入および即時修復を多く応用していました。留学期間中、症例に対する彼の考え方や術式そのものの重要性、または学生教育における工夫や方針、講義の在り方について共感しました。

大学では、卒後研修プログラムに参加するタイ、カナダ、メキシコ、イスラエル、イラクやインドと様々な国からの留学生と交流を深めることができました。彼らや口腔インプラント科のスタッフとともに、あらためて口腔インプラント学を原理・原則から学ぶ機会が得られ、充実した期間を過ごせました。今後、この多くの学びを福岡歯科大学の教育や臨床、研究で発揮したいと思います。

最後になりましたが、この留学にあたり口腔インプラント学分野城戸寛史教授をはじめ、同窓会の先生方

および同会長宮口巖先生、臨床准教授吉永修先生、咬合修復学講座の先生方など多くの方々に力強いご支援をいただきました。心から感謝を申し上げます。



懇親会にてDr. Joseph Kanと。

オープンキャンパスに親子で参加して



佐賀県佐賀市開業
酒井 正男 (14期)

平成27年5月31日（日）福岡歯科大学同窓生対象のオープンキャンパスが行われました。我が家の中の息子と娘も進路を考える年齢になり、このたび親子3人で参加しました。

大きく様変わりした大学の周辺を眺めながら、初めて見る東側の新しい正門を通り、卒業以来20数年ぶりに懐かしの学内へ。病院棟～本館の建物自体に大きな変化はないものの、中に入るとあのたばこで煙っていた学生ホールは耐震補強され、清潔で明るいおしゃれな空間に様変わりしておりました。各所にはサポートの現役の学生さんが待機、誘導してくれ大変好感を持てました。

会場の901教室に入り、午前10時いよいよオープンキャンパスが始まりました。水田理事長の厳粛な挨拶に続き、宮口巖同窓会会長が自らの学生時代のエピソードをユーモアを交えて挨拶され、続く衆議院議員の比嘉奈津美先生の挨拶の後には「頑張れば歯科医師だけではなく、国會議員にもなれます」と紹介され、会場は一気に和んだ雰囲気になりました。

学生部長の岡部幸司教授より大学の概況や入学試験の概要についてスライドを使った詳しい説明があり、その後施設見学が行われました。参加者を班分けして図書館から病院棟へ。学生時代にはなかった医科の診療科が多くみられ、また総合診療室には数十台の最新のユニット、医療機器が設置されておりました。登院実習当時の学生技工室はシミュレーション実習室となり、また最新鋭の精巧な患者型ロボットが導入されており、このような施設で学習できる環境に我が家の子供たちも大変関心を示していました。

施設見学の後は、4階実習室において「歯をきれいにしてみよう」というタイトルで模擬実習が行われました。まず歯科保存学分野の泉利雄准教授よりむし歯発生のメカニズムや治療方法、充填材料等の詳しい説明があり、医局の先生方や学生さんのご指導で、実際に人工歯にコンポジットレジンを充填し、エアタービンで研磨する実習を子供たちはぎこちないながらも頑張って行っておりました。



模擬実習

その後1階学生食堂において教員および在学生を囲んで、和やかな雰囲気の中で昼食会が行われました。在学生による学生生活の紹介や子供たちとの談話、個別進路相談等が行われ、全日程が終了しました。

今回初めてオープンキャンパスに参加し、我が家の子供たちは緊張の中にも大変満足した様子でした。こ



診療室見学



自習体験



比嘉なつみ先生も急遽出席



左から尾崎正雄教授、石川博之学長、高橋裕教授
後列のお手伝いの在校生の皆さんと

なつみ先生を支えるために



沖縄県同窓会会長
松島 一夫 (8期)

同窓会の先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、予てより計画していました同窓の衆議院議員、「比嘉奈津美先生を支援する会」（名称未定）を設立することになりました。先日行われた平成26年度の評議員会、総会（平成27年5月30日、ホテル日航福岡開催）において会の設立の趣旨説明をさせていただき、たくさんの先生方から激励のお言葉をいただき心強く感じました。

現在、2期目に入り、衆議院厚生労働委員会に所属

れを機会に歯学に興味を持ち、今後の進路の選択肢として検討してくれるものと考えております。

この度のオープンキャンパスを企画された教職員の先生方、同窓会役員の先生方、またサポートしてくれた在学生のみなさん方に感謝申し上げます。

し、医療界出身議員として精力的に活動をしています。一方、選挙区選出の議員でもあります。ご承知のことだと思いますが、なつみ議員の選挙区である沖縄第3選挙区には、普天間飛行場の移転先として全国的にも注目されている辺野古があります。議員としては当然かもしれません、毎週末は沖縄に帰り地元での政治活動を行い、月曜日の朝に東京に戻るというハードなスケジュールをこなしています。

なつみ先生には、歯科医師として約25年間開業医を務めたという自負があり、医療界に対しては人一倍強い思いがあるようです。よって、今回、設立される会は福岡歯科大学同窓会をはじめ、沖縄県内の歯科医師、医師、薬剤師等にも呼び掛けて医療界を中心に組織づくりをしていく予定です。

国会議員は当選回数がものをいう世界のようです。5期目になれば、大臣も夢ではありません。なつみ先生には大臣を目標に、是非とも頑張っていただきたいと思います。そして、同窓会の先生方へは「我々、同窓がなつみ議員を支えずに誰が支える」という意気込みで、一人でも多くの先生方が、支援する会へ入会することをお願い申し上げます。

お知らせ

【逝去】

(法人関係) _____
福岡学園 理事長
田 中 健 藏先生 平成27年2月11日逝去

(同窓生) _____
藤 井 仁先生 (4期、山口県)
平成27年7月6日逝去
世 戸 良 典先生 (1期、佐賀県)
平成27年5月21日逝去
名 嘉 真武知先生 (2期、神奈川県)
平成27年4月22日逝去
井 手 雅 彦先生 (5期、佐賀県)
平成27年3月22日逝去
村 田 庸 徳先生 (8期、神奈川県)
平成27年2月5日逝去
津 村 太先生 (16期、福岡県)
平成27年1月25日逝去
阿比留 隆 仁先生 (3期、東京都)
平成27年1月12日逝去

同窓会誌「背振」・
同窓会通信「季節風」

原稿募集

広報委員会では同窓会誌「背振」・同窓会通信「季節風」への皆様方の近況報告や学位取得された先生方の原稿を募集しております。また、各期等の周年記念事業などの開催の告知も掲載致しますのでお申し出ください。

福岡歯科大学同窓会事務局

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15-1
Tel 092-863-2966 / Fax 092-863-2967
dousoukai@college.fdcnet.ac.jp

第68回九州歯科医学大会における同窓会懇親会のご案内

日 時 平成27年11月14日 (土) 午後7時より
場 所 パシフィックホテル沖縄
TEL 098-868-5162
〒900-0036 沖縄県那覇市西3丁目6番1号
会 費 15,000円 (2次会費込み)

楽しい企画満載ですので、ご出席のほど
宜しくお願ひいたします。

沖縄県同窓会
会長 松 島 一 夫